

中央大学

国立白門会  
創立三十周年記念誌

はばたきⅢ

国立白門会ニュース第43号

中央大学学員会国立支部





## ご挨拶

中央大学学員会国立支部  
支部長 山口 康雄

中央大学学員会国立支部が昭和 53 年 5 月に発足して今年で 30 周年を迎えることになりました。この間、初代支部長 村田 亘さん、第 2 代支部長 能味寿哉さん、第 3 代支部長 堀田 勲さんをはじめ、歴代の役員の方々の皆さん、多くの会員の皆さんの御尽力で、国立支部は多くの足跡をのこしてきました。

中央大学も 2010 年には創立 125 年を迎え、「21 世紀に新しい社会を創造する世界最高水準の大学をめざし、総力をあげて大学改革総合プロジェクト」を展開しています。このプロジェクト推進のための募金活動も全国的に順調に行なわれています。国立白門会も母校の 125 周年プロジェクトに賛同し、一人でも多くの会員が寄付金に協力し、母校発展に少しでも貢献したいと考えています。また、会員の皆さんに絶大なご協力をいただいて各事業を推進し、会員相互の親睦をはかることは勿論のこと、地元国立市民と一緒にいろいろな行事を引き続き実施していきたいと思ひます。

更に三多摩地区連絡協議会 11 支部とも密接な連絡をとりながら、母校中央大学が世界に存在感のある大学として発展するために、大学並びに学員会に協力する国立白門会にしていきたいと念願しています。会員の皆さんには温かいご協力とご支援をお願い申し上げます。

また、当会では会員の増員の必要があります。比較的若い人達に敬遠されがちだと思いますが、地域支部の特徴は、幅広い層の交流が出来るうえ、地域とのつながりという点で、メリットが多いと思ひます。

平成 10 年～平成 20 の国立白門会の軌跡をまとめた「はばたきⅢ」の発刊ができました。多数の皆さまからの寄稿および取りまとめのご苦勞に厚く御礼申し上げます。

最後にご苦勞頂いている役員の方々に感謝申し上げますと共に、国立白門会がこの 30 周年を機に、さらに大きく発展しますように、ご祈念申し上げ、ご挨拶といたします。



## 或る爽やかな法曹の栄光

市橋 千鶴子



三月のとある日、私は弁護士会会館内の当日句会場となる会議室の扉を開けて、仲間の数名と講師のご到着を待っていた。突如「お元気ですか!!」と風のように飛び込んで来られたのが、この小文の主人公として登場される、或る爽やかな弁護士さんで、私も突然の邂逅が嬉しくて、何か云いながら思わず駆け寄った。そのひところ、いまわが母校中央大学法学部の「法曹特講」と「法

務インターシップ」という、法曹養成の新講座を担当されている客員教授、しかも所属される東京弁護士会の弁護士倫理特別委員会の委員長と、華々しい活躍をしておられる溝口敬人先生である。

現在、ご住所は練馬区に移られ、事務所も都のどまんなかの西新宿に、立派な「みぞぐち法律税務事務所」を構えられながら、いまだに国立白門会の準会員として、修習生の若き日々を過ごされた国立会の会員との旧交を、深く心に刻んでおられるのである。

昭和58年の春宵のひとつ、花芽のほころび始めた桜の樹々を見下ろす国立駅前のフランス料理店において、初代会長 村田亘氏と私とでささやかな小宴を催し、赤ワインの盃を掲げて、先生の法曹としての輝かしい門出をお祝い申し上げたのであった。

現在、押しも押されぬお立場の敬人先生が二十六年の歳月を経たいまなほ、若き日の容姿風貌を爽やかに保っておられるのも、人格高潔なそのお人柄に依るものに相違ない。

先生は例年の早春に「そよ風通信」として、一年間の法律実務上の所信やゼミ風景のほか、大学や研修所で指導を受けられた恩師の先生方との交流関係を具に述べられ、その謝恩の気持を長年に亘り欠かさず旧交ある者へもお届け下さったことである。

国立白門会は、本年創立三十周年を迎え、歴代の執行部に優れた人材をお迎えし、お蔭様で今日の発展を見るに至ったが、創設に至るまで、または設立当初の村田会長の、情熱溢れる東奔西走のご活躍振りを知る者にとり、予想に反したお早いご逝去は、まことに惜しまれてならない。

あの時、「溝口君は、さぞかし誠実な弁護士先生になられるだろう。楽しみだなあ。」と優しく敬人研修生の後ろ姿を見送っておられた村田会長に「そよ風通信」に代わって、この小文をお届けしたいと、春の星を仰ぎながら心に願っている私である。

### 中央大学法学部の講座担当



昨年、中央大学法学部の客員教授として、「法曹特講」（毎週開講）と「法務インターシップ」の講座（隔週開講）を担当しました。「法曹特講」は、前期と後期と通年で、毎週大学に通うことになりました。

学生とは、親子ほどの年齢差となりましたが、学生の方が結構頭が堅く、具体的な事案に即した柔軟な考え方では、まだまだ学生には負けません。学生には、法曹の仕事の魅力を感じてもらい、実務法曹のしなやかな法的バランス感覚を伝えたいと思っています。

前列右から2人目 溝口敬人先生



## 草創期の侍たち



### 能味 寿哉

手元にある「国立白門会創立 10 周年記念誌」の頁をめくると、今は亡き 村田 亘会長をはじめ役員の方々の懐かしい面影が直に浮かんでくる。執筆されたのは初代幹事長の福谷実さんで、責任感の強い人柄から一生懸命に記述された見事な一冊になった。常日頃、福谷さんの温厚誠実さを信頼しておられた村田会長は、その出来栄えに大変ご満悦の様子だった。

会が創立されて暫くの間、福谷幹事長が苦勞されたのは、十余人が集まる役員会を開催する適当な場所がなく転々としていたことだが、ある時、事業部長を努めた佐藤勝博さんのお申し出で東 3 丁目 3 3 番地にあるご自宅を使わせてもらうことになった。国立駅南口から歩いて 20 分位のやや辺鄙な場所だったが（失礼）、出掛けて行って驚いたのは、百坪をこえる広い敷地に悠然と構えた平屋建てで、風格のある和室には虎の敷物があつたように思う。大きな床の間には由緒あり気な壺や皿が飾り立てられ、鰐の剥製もあるといった具合で、皆さんもいい気分になっての役員会になった。佐藤さんの話では、終戦後の商売がうまく当たったうえ、国有財産の払い下げで国立の地所を格安に入手出来たという。移ってきた当時は野兎が草叢を飛び跳ね、台所に狸が顔を出すという日常生活が楽しかった由。秋田県合川町出身で郷里に格別の愛着を持ち、四季折々に物産品を仕込んで懇意な人たちに分けてあげることから始まり、その後都心に酒場を開いたり、自宅近くに小料理屋を作ったりして事業を拡げていったようだ。そして昭和 58 年 5 月 26 日正午、日本海中部地震が発生。男鹿半島に遠足中の合川町の小学校児童 45 人のうち 13 人が津波にさらわれるという悲劇がおきた。佐藤さんは早速見舞金の募集にかかわり私達も応分のお手伝いをさせてもらったが、後日、合川町と国立市との間で、児童交流や市民文化祭への物産販売などの幅広い道がひらかれる基ともなったことを、忘れてはならないと思う。

## 会員のみなさまに感謝



### 堀田 勲

能味支部長の後をうけ、三期六年間支部長を務めさせていただきました。その間、会員の皆様また奥様方に多大なご支援をいただき、心から感謝いたしております。創立以来、引き継がれてまいりました会員相互の親睦、母校への貢献、地域社会への貢献を三本柱に諸々の活動をやってまいりました。今では国立白門会と言うと「中央大学の OB のみなさんの会でしょ」と言うように市民にも広く認知されるようになりました。

ただ、思うように新規会員の増員が達成できなかったこと残念に思います。

数ある大学の中から縁あって中央大学に入学し、縁あって国立に住み、縁あって会員の皆様と知り合うことができました。この縁は私の一生の宝物であり、よろこびであります。

我が支部は旅行会、市民祭などのイベントには家族の皆さんの参加を積極的にすすめ、家族ぐるみのお付き合いを実現してまいりました。この状況を国立支部は「仲良しクラブ」と評する方もおりますが、これもまた大切なことであると思っております。



## 卒後50年



### 丸本 大

平成21年1月31日(土) 西新宿のホテルで白門34会の新年会が開催された。出席した同期生は、総勢54名中49名が一都六県からで、遠方からは福岡から参加していた。中大卒後50年を迎え、昨年10月には池田前会長も長の旅立ちとなられ、新年会とはいえ、鬼籍に入られた同期生のご冥福を祈るしかない。

参加された同期生も中には病を押して、又持病を持ちながらの参加であったが、みんな明るく若返った感じで会話もはずみ、飲み物も、飲み放題で、二次会のカラオケにも27名が参加して、各々得意な歌で、さすがに長年社会を歩いて来たと感じる年季の入った歌い振りに参加された方々は、まだまだこれからが長いと思わせられた。

全国から新年会にこれだけ参加されることは、年齢を考えても、人生元気で長生きの時代に入っていることを実感させられた。自分も、ひとふん張りして、余生のあるかぎり、元気に生活してゆきたいと思う。



## 大学通り電柱の地中化昔ばなし

### 谷 清

国立の顔とも申上げてよい大学通りの桜並木は、市民の誇りであり、東京百景にも選ばれています。古くから国立に生活していた人々は、大学通りをはじめ街中の街路灯が、電柱に取り付けられた蛍光灯で味気ないものでした。この蛍光灯は東京電力が毎年40ヶ所ずつ国立市に寄付をしてくれたものです。私が市長となって、東京電力から例年の通り寄付の申し入れがありました。私は、街を明るくすることと、美化することを考え、寄付の申し入れをお断りいたしました。そのとき東電に対して、大学通りの美観と桜並木を大切にするため、電柱の地中化について強く要請し、幾多の問題がありました。実現することができました。

現在は地元の商店街のご努力のお陰で、谷保駅まで国立にふさわしい街路灯が整備されました。又桜通りの街路灯も地中配線ですね。



## 趣味に生きる

### 福谷 實

齢七十七、喜寿を迎え、老境に入っている私ですが、現役時代から趣味として吟詠を勉強していたことが今となって大きな喜びとなっていることに気づきました。

中学生時代、漢文の授業を少しでも受けていたことが抵抗なく吟詠の道に入れたのだと思います。そして、漢、日の詩を朗々と吟じる時、種々の雑念が消え失せて、詩のもつ境地に浸ることの楽しさ、嬉しさ、なんとも言えませんが、詩吟を通じて同窓の先輩、能味寿哉様ともお近づきになれました。詩吟の会で能味様の吟に接する時、いつもウットリしたものです。最近、体調をくずされて名吟を聴けなくなったのが残念です。国立市吟詠連盟の会長を経て、今は顧問をしておいでです。

また、吟を生かす術として、書をともし立ち、自己流ながら、七十七の手習いとして、書道の勉強もしています。これも、精神統一の一方法として精進するつもりです。



# 個性ある町国立

北井 治徳



戦後間もなくわが家は空襲で焼け出された高円寺から国立に越してきた。旭通り中央、應善寺近くの借家であったが、周辺に民家はまばら。鬱蒼とした雑木林の中で、狸や野兎などを見ることも珍しくなかった。駅前ロータリーから延びる3本の放射道路は砂利道で雑草生い茂る田舎道であった。ちょっと雨が降れば大きな水溜りができ、時に川となり、ゴム長靴が必需品だった。

あれから60余年。結婚や転勤などで内外各地転々の20年を除くほとんどをここ国立で過ごしてきたことになる。「住めば都」とよく云うが、いくつかの都の中でも心から住みたいと思わせる町は国立を措いて他にない。

国立は典型的なベッドタウンであり、学園都市である。市面積の三分の一を占める文教地区の中に静かな住宅街が広がり、谷保天満宮、城山、ママ下湧水など谷保の田園地帯が四季折々の美しさを見せてくれる。市街地と田園地帯の二面性が、国立の魅力の一つでもある。反面目立った産業が育ちにくい点もある。中央線沿線には成熟した商店街がいくつもある。それでも、「くにたち」という響き、大学の町という落ち着いた、洒落た町のイメージを背景に、個性を生かした小売店や飲食店などが少しずつ増えているのは頼もしい。

大学通りの緑地帯を利用してオープンカフェのような癒しの空間を作れば、町の魅力も更に増すのではないかと思う。所有者との交渉や法規制クリアのため色々な問題があるが、何とか実現できないかと考えている。

大正末期箱根土地(株)が都心から遠く離れた辺鄙なこの地で『国立大学町』の建設を始めたが、その後の町づくりには市民たちも積極的に参加して理想的な学園都市としての環境を守り、イメージを高めてきた伝統がある。これからも町並みや、町全体が国立の文化や佇まいを生かした個性ある町であってほしいと願うものである。

# 夢の島

阿部 正行

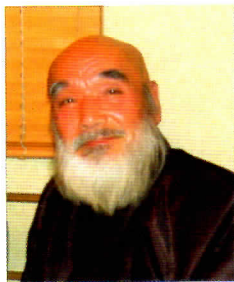


暗い冬の海、星が出て無い闇夜に、石油コンビナートのライトが遠くに光っている。「バルブを開け」と声がする。まわりに人がいないことを確認し、放水した。東京湾の海水は茶色に濁っていく。市ヶ谷の警察病院の工事現場、前日の雨で基礎部分に雨水がたまり、バキュームで泥水を吸い上げる。夢の島の決められた場所に捨てるには、金を払わなければならない。新宿のW興行の運転手は、金をかすむことを考えている。私はアルバイト。命令に従い、疑問に思わない20歳の自分がいた。早朝の歌舞伎町は、ウイスキーのビン、コーヒー粕、衛生用品などが山積みになっている。東京都清掃局の下請けの収集車に乗り、夢の島に1日2往復する。40年前、何でも一緒に埋立地に捨てていた島は、カモメやカラスが声をあげて蒸れた生ごみをあさっていた。そこは今、テレビ局やゴルフ場になっている。高速道路、下水のマンホール、屠殺場での清掃業の汚れ仕事は、小指の無い人、前科もちの人などがいた。それは、表と裏を見る私の心に生きている。



## 白門会と私

二宮 亮巍



昭和 53 年 中央大学がお茶の水から八王子の多摩校舎に移ってくと同時に、国立白門会が旗揚げしました。その陰には故人となられました。初代会長の村田亘氏の並々ならぬご尽力があったればこそ、今日の国立白門会があるのだと思います。

当時、市長が 谷 清氏で行政からの後押しもあったやに聞き及んでいきます。当初、白門会は「三多摩白門会」として八王子・立川が中心になって一つしかなかったと記憶しております。それから日野・三鷹・小金井・国立・町田・小平・府中・多摩と次々と独立して行きました。

いずれにしても、まだ若かった私は最初の設立総会から参加させていただきました。故人となられた村田氏・佐藤氏・井上氏・久保田氏・山崎氏・山村氏等々そうそうたるメンバーがおられ、皆さんが同じ学校を卒業した、この一点で繋がり和気あいあいと皆さんが楽しく集まって来られたことを思い出します。

講演会では芸小ホールでの丹波哲郎氏の「大霊界」、旅行では袋田の滝・筑波山・潮来・馬籠・妻籠・奥多摩の黒茶屋・等々いまだに楽しい旅行は続いています。

国立白門会設立後 6 年にして私は脳梗塞を患い、入院する羽目になりましたが、皆様がお見舞いに来てくれ、励ましを頂いた事は今も忘れません。

これからも色々なことがあるでしょうが、国立に住んでいるいじょう白門会の皆様には何かとお世話になると思います。今後とも宜しくお願ひしたいと思ひます。

## 私のターニングポイント

大寺 順子

還暦近い歳になって、私の人生のターニングポイントは何であったか振り返る。一つは通学していた聖心女子学院でカトリックという宗教に出会ったこと。お行儀の躰が厳しい学校で少し窮屈ではあったが、その教義は私の生き方を支配した。自分には正直だが、結果的には甘えることのない不器用な生き様となった。もう一つは 23 歳の時に血液の癌になり死に直面したことだった。そして一生癌との闘いとなった。人生にとって「物」の無意味さ、ルールや虚栄の空しさ等、価値観を変えることになった。もう一つは身内のことで、それは私から祈りのような先祖の守りのようなものを奪い、孤児であるほうがましだった。それゆえ孤独死を報道されても、私には死ぬときは一人であたりまえと思える。

中央大学を出て、仕事、結婚、子育てと人並みに楽しみはあった。が私のターニングポイントは内面から左右したものだった。

2009・2・1 イタリア ミラノにて





## 一枚の葉書



保延 和夫

学友からの一枚の葉書で私は救われた。二十五年旧制経済学部卒、日本経済の復興未だして、就職戦線はきびしかった。ましてや、あまり勉強していない私にとって、身の程知らず一流の会社ばかりをねらっていた。やっと読売新聞パス、身体検査も終り内定。

教授の紹介で週刊の経済新聞社に勤め、読売の採用決定の通知を待っていた。その頃学友の岡君から葉書があり。読売パス聞いた、でも念の為、都庁が募集しているので、受けておいたらとのことであった。締め切りは明後日、急ぎ書類を整え学生課へ。その後、試験、面接、そして採用決定となる。その直後読売よりの不採用の通知に接す。こんな経過で都庁に入り三十年余勤務。勤めて十余年、きわめて難しいと云われる管理職試験を受ける。試験場はなれている中大の教室、三区分の六時間の闘い、それでも比較的落ちついて存分に対応。あまり基礎的な勉強もしていない自分、やっとぶらさがったものと思っていたが、その後とんでもない順位で合格していたことを知り驚く。

定年近く各都道府県で一名宛自治大臣表彰を受ける。皇居春秋の間、上御一人の間近でお言葉をいただく。

中央大学では土方成美、樺 俊雄 一安保闘争で娘さんを失う一 井上達雄、沖中恒幸、関野唯一の各教授に特にお世話になった。

もう一つの思い出は野球。講堂で応援歌の練習、昭和二十五年、東京六大学、関西六大学、そして東都六大学の優勝校が日本一を争う大学王座決定戦で三大学、三スクミとなる。中大の投手 高橋 輝、新制大学を中退して国鉄スワローズのエースとなる。有名な金田正一の前のエースである。巨人を苦しめる左投げでドロップのきびしい好投手であった。以来今日まで熱烈なるスワローズファンとなっている。

一枚の葉書、岡 昭君ありがとう。そして中大を出たことを心から幸せに思う。

## スポーツ主体の年金生活

沼崎 末次

昔から土日のテニスを楽しんで来ましたが、2004年会社定年を機に水泳を始めました。定年で暇になったら囲碁・将棋や近くの中央図書館通いをするつもりでしたが、頭を使うより身体を動かす方が向いているようです。市内の水泳クラブに入会、毎週1回練習。練習日以外もほぼ毎日市民プールに通い続けています。2005年には年間水泳回数 279回。その年、定年記念スイス熟年旅行に海水パンツを持参、宿泊先々のホテルのプールで



も習いたての泳法を復習。添付写真はアイガー北壁をバックにした記念の1枚です。昨年は財団法人日本水泳連盟公認水泳指導員の資格に大学生諸君に混じって挑戦・取得。小学校水泳教室のお手伝いもしました。古希まで2年を切る歳となりましたが、土日テニス・月2回ゴルフ・毎日水泳をこれからも続けて行きたいと思っています。

以上

(2005.6.23 スイス アイガー北壁をバックに)



## 国立白門会との出会い

上田 邦雄

出会いと別れとは人生に付き物ですね。友人との出会い、恋人との出会い、恩師との出会いとか世の中には沢山の出会いがあります。国立白門会との出会いもふとしたキッカケから始まった訳です。私が仕事で広告主の獲得で悩んで女房に話しかけたところ、風間さんに相談したらの一言で国立白門会との関わりが始まったのです。その最初の顔合わせが忘れもしない平成3年1月の白門会新年会の席上でした。場所は信濃路の二階で宴席では村田会長さんをはじめ、重々しい会員の皆さんがおられ、私としては緊張の中での体験で



した。その後、親切な皆さんとお付き合いを仕事抜きでさせて戴いているところです。特に風間さんをはじめとして堀田さんには私個人で大変お世話になり、感謝しております。このように私と国立白門会との出会いは正に女房の一言で決定した訳です。これからも数少ない出会いを大事にして行きたい思う今日この頃です。

## 国立白門会三十周年に思う

北澤 寿恵子



毎年正月二、三日に箱根駅伝TVに熱中する。母校愛が自然と湧いて来る。信州大学二年制を終了、教員の資格を得てから兄の勧めで中大の三年に学士入学した。法学士と司法試験合格を夢見ていた。研究室に入室し法律書に目をさらして、甘い夢から覚めるのは早かった。兄は「寿恵子が男だったら、教員をやめて勝負を賭けると勧めるのだが」と残念がった。教員の仕事は気に入っていたし、法律書には集中できなかった。結局教員を定年まで勤め上げ、現在年金で暮らしている。

趣味はシャンソン、書道、茶道、詩吟と多く良き師、優しい仲間恵まれて楽しんでいる。どこでも自分より年長の八十代の先輩方の若々しさに大いに刺激を受けている。法学士の資格に誇りを持ち続け、後何年生きられるか分からないが、生きている限り、世のため人のため役に立ちたいと願っている。





## 来る国立白門会50周年に向けて

真見 敬



私が国立白門会に参加させていただいたのは今から10年前、会の20周年記念式典が盛大に行なわれた年でした。この式典の懇親会にて私は「50周年記念式典は私が責任を持って開催します」と宣言しましたが、あの時から10年が経ってしまったのかと思うと時の流れの早さを感じます。

この10年の間にはサラリーマン生活にピリオドを打ち、1年間の資格試験受験準備期間を経て独立開業するといった出来事もあり、人生の大きな転換期でもありました。資格試験合格の折には国立白門会の先輩方に谷保の居酒屋にて盛大な祝賀会を開いていただきまして本当に感激いたしました。

このようにいろんなことのあった10年でありますが一つだけ変わらないのが国立白門会に私の後に続く平成卒の会員が定着しないということです。私自身のスカウティング能力不足もあると自負しておりますが、会全体としても若手会員の増強という永遠の課題に対して真剣に向き合う時がきていると思います。今の若者は、人と群れるのが嫌いだからと結論付けることは簡単ですが会が50周年を迎えられるかどうかは今後の会を支える若い力にかかっている訳でして、何とか年に1人でも2人でも若手会員が定着する環境を整備したいと思います。

今後とも会を盛り上げるべく尽力いたしますので、先輩方には引き続きご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

## 卒業50年目のホームカミングデー

重野 和夫



ここ数年、母校中央大学のホームカミングデーに国立白門会の皆さんと楽しく参加している。昨年は、10月26日多摩丘陵や校舎周辺の木々の紅葉が始まり、気持ちよい秋空の中で開催された。なんとと言っても印象深かったのは、大学が昭和33年卒業生のために「卒業満50年記念の祝宴」を催してくれたことであった。

広い会場では、懐かしいジャズが演奏され200人以上の同窓が集まっていた。各テーブルはほぼ満席状態で、そこでは積もる話に賑やかに歓談する大きな花が開いていた。絶好のチャンスであるから、自分の学部学科の同窓の皆さんがこの会場にいたら会ってみたいと思い、担当者に調べていただいたが、残念ながら一人もいないと言うことであった。

33年度の工学部電気工学科の卒業生は、80人不足であるから無理もないことだと、一人納得した次第である。同窓の皆さんとは、卒業以来久しく会っていない。駿河台校舎、水道橋校舎での若き日の出来事や、熱っぽく人生を語り合った友の姿が、脳裏をかすめ、同時に自分のこれまでを振り返って感傷に耽るひとときであった。



## 卒業以来五十年



風間 健

昭和 35 年（1960 年）卒業以来、来年の平成 22 年には満 50 年になります。静岡県の片田舎から東京に出てきて高校から大学卒業、就職、結婚、子育ての 50 年はあっという間の、きのうからの出来事のような感じがしております。

しかし、七十歳を過ぎて改めて自分の人生を振り返ってみると、証券会社就職、脱サラ、保険会社代理店経営、国立市議会議員と波乱に満ちた人生だったと感慨深いものを感じます。今はすべての仕事を引退して何の心配事もなく人生最後のひと時を楽しんでいます。

ゴルフやハイキング、今年は地元自治会の推挙を受けて会長をつとめることになっています。特に今一番の楽しみは、国立白門会の親しく付き合っている三組の夫婦そろっての旅行は本当に楽しく年に二、三回は出かけています。今年の二月には弘前城公園から新潟の村上市、米沢の上杉神社をまわって冬の東北の雪や温泉を楽しんできました。5月には北海道の東部、中標津周辺の初夏のドライブを楽しんでくる予定です。

これも、ひとえに健康でなければ出来ないことで十五年以上続けている毎朝六時半からのラジオ体操のおかげだと思っています。谷保第三公園でやっています。どうぞ皆さんもいかがですか。大歓迎します。

## 国立白門会 30 周年おめでとうございます



平本 聖子

私が白門会に参加させていただいて、20 数年経ちます。思えば長い年月になりますが、その間、先輩、後輩として、安心して楽しく活動できたことで、あっという間だったようにも感じます。歴代の会長、幹事長、諸先輩のご尽力、ご親切に心から感謝申し上げます。

学生時代から私は、強度の頭痛があり、思うほど講義にも出席出来なかったのですが、中央大学で法律を学び、よき師、友に出会えたことを、ほんとうにうれしく思っています。

犯罪学の藤本哲也先生のゼミに入り、先生から初めて出されたテーマの「死刑存廃論」で、仲間と必死で語り合ったことを思い出すと、今でも気持ちが熱くなります。白門会で先輩と肩を組んで校歌を歌っている時など、学生の頃の熱い気持ちを、なつかしく思い出しています。

国立白門会が末長く素晴らしい会でありますように、心から祈念いたします。



# 同好会

石井 孝



企業を定年退職した後どのような人間関係を築くか？聞かれることがあるが、私は現役時代から交流が広がりすぎていた。50歳で東京（本社）に戻り、支店で一緒であった仲間を集めては、「ふるさと会」と称して、飲み会を開催していた。広島会では「加茂鶴・酔心」を飲み、名古屋会では「きしめん」を食べながら「ねのひ」を飲み、北陸担当者を交えて「黒龍」を飲み、関西経験者は「浪速会」と称して頻繁に

飲んでいました。やがて同期入社 of 管理職達も部下と飲むより気兼ねないと集まるようになる。S39年入社で、今は毎年3月9日に上野界隈の居酒屋に集まることになっている。今年も2名の入院中を除いて全員が集まり、飲み出せば、話題は病気の話ばかりです。胃がないといいながら肴に文句を言う人、秋葉の電気街を肩を張って歩いていた人が伸縮自在の杖をついてきた。気軽でいいものだ。何はともあれ、若いときに一緒に苦労した人たちと思い出話をするのが一番の楽しみです。

仕事で出会った中学の同級生と商談不成立にもかかわらず、ゴルフの約束をした。ところが翌日に電話があり、山行に変更された。30年ぶりの登山となった。「乾徳山」上級者ルートだ。塩山駅に26名も集まっていた。元気な中高年のおじさん、おばさんたちです。何とメンバーの中に中学（中野六中）の同級生（女性）が二人もいる。ぜんぜん覚えのない方ですが、この会（夕映会）に勧誘された。以来毎月の例会（山行）に参加しています。キーワードが「健康」であるが、足腰だけでなく、心の健康を求めている。野山の自然と触れ合い、土地の人々との触れ合いや生活・文化・歴史の探求なども視野に入れている。下山後の温泉とビールがメンバー間のコミュニケーションを一段と深めています。

ある日、打ち上げが中野の焼き鳥や「竹やぶ」で開かれた。なんと店主が小学校（野方小）の同級生でした。彼に誘われて「中野区白門会」に入会し、ハイキング会のリーダーとして「西沢溪谷」に出かければ、参加者の中に中大商学部の先輩に出会い、中大ワングルOB仲間の山の会（名山区）に勧誘された。OBが中心ですが、その友人、職場仲間、山仲間と関東一円に在住する50名の会員が常に山行している。毎月駿河台の中大会館で開かれる例会は山行の報告と次の山行計画が発表される。雲取・槍・アラスカ・中国・インド・・・国内外の山とカルチャーの計画で話が尽きない。

現在、国立白門会での各種イベントを通じて「仲間・人間関係」がますます拡大しています。このネットワークにおける仲間たちはまさしく人生の宝物と思う今日このごろです。

## 1万5千時間も飛びました

斉藤 孝之



ある先輩から突然、「お前は面白い経歴なので書け」と言われ、「私は新人ですし会費も払っておりませんので」とお断りしたのですが、「会費は4月分からにしてやるから書け」の一言に乗ってしまい、書かせていただいた次第です。

昭和41年理工学部精密機械工学科に入学しました。サークルは『中大ローバークルー』



というボーイスカウトの青年隊です。翌年の白門祭に、わがサークルと学生部で〔50Km ナイトハイキング〕を企画運営しました。参加された方もいらっしゃると思います。現在も〔100Km ハイキング〕として受け継がれているとの事、嬉しく思っています。

昭和 45 年に卒業し、少年の頃からの憧れだった戦闘機パイロットの卵として航空自衛隊幹部候補生学校に入校し、社会人生活の基礎を学びました。自衛隊では白門出身の同期生（後に指揮幕僚課程に進んだ勉強家もいました。）、先輩に出会い充実したひとときを過ごしました。

昭和 47 年秋に全日空の運航乗務員要員（航空機関士）として、民間航空人の仲間入りをし、以来 35 年間フライトクルーとして乗務してまいりました。4 機種（B-727、L1011 トライスター、B-747 ジャンボ、B-747F 貨物機）を乗り継ぎ、総飛行時間 15,000 時間、運んだお客様約 250 万人、国内 18 空港、海外 16 カ国 21 空港をフライトしました。フライトの話は別の機会にしたいと思います。

全日空においても白門出身のパイロットや社員と接する機会がありました。白門出身の人は、親切、まじめ、目立たない努力家、着実に仕事をこなす印象が強く、特に運航、整備の部門においては感心した人が多くいました。

国立白門会につきましても、昨年の市民祭で白門会のテントに引かれ飛び込んだのがご縁の始まりです。その後、山口会長、石井幹事長のお導きで、新年会、今熊山登山、クリーン多摩川、吉野梅郷ハイキング、さくらフェスティバルと、楽しく有意義なときを皆様方と過ごさせていただいております。

今年は国立白門会創立 30 周年との事、この会のますますのご発展と皆様方のご健勝をお祈りし、筆を置かせていただきます。



## お母あーの腕まくり

春日 勝

夏の風物詩の中で、避けたいものの一つに、「雷」があります。突然の雷雨に見舞われ、瞬時、恐い思いをしたことを、経験しなかった方は、皆無でしょう。

私が仕事で出張した福島県で、村の集落の長老（「おんつあま」といいます）と一緒に、牧草地を見廻っていた時のことです。

ゴロゴロと雷鳴が轟き、遠くの空が暗くなり、稲光がピカピカと光り出しました。私は危険を感じ、車まで走って、避難しましょうと言いますと、おんつあまは、落ち着いて、「なーに、お母あーの腕まくりよ」と言うのです。「ライサマ（雷様）は来んよ」と続けて、落ち着いて避難しようとしません。おんつあまには、風と雷雲の方向と地形で、雷の通る道が、長い経験で解るようなのです。

何故、「お母あーの腕まくり」と言うのか、同道した あんにゃ（兄い）の解説によれば、「驚かされるけど、決して危害はない」と言う意味とのことでした。

雷の他にも、危害をもたらす社会事犯が多いなか、「お母あーの腕まくり」のように、何事も避けて済むよう、安寧な日々を送りたいと思う、今日この頃です。



## 国立白門会役員

平成 9年6月

顧問	中西 旭	市橋千鶴子	谷 清	酒井 博	
相談役	福谷 実	山村鶴音	山崎 武	二宮 巍	井上正博
	金子泰久				
支部長	能味寿哉				
副支部長	荒木繁幸	丸本 大	堀田 勲		
幹事長	風間 健				
副幹事長	新倉良平				
組織部	小島泰義	川村俊介			
事業部	山口康雄	若林 修			
厚生部	藤村俊夫	上田邦雄	関 喜一		
広報部	平本聖子	枝根 亨			
会計	高橋雅幸				
会計監査	穴戸勇之				

平成13年6月

顧問	中西 旭	市橋千鶴子	谷 清	酒井 博	能味寿哉
相談役	福谷 実	山村鶴音	山崎 武	井上正博	金子泰久
	荒木繁幸	藤村俊夫			
支部長	堀田 勲				
副支部長	丸本 大	小島泰義	山口康雄		
幹事長	風間 健				
副幹事長	新倉良平	平本聖子			
組織部	二宮 巍	川村俊介			
事業部	石井 孝				
厚生部	上田邦雄				
広報部	枝根 亨				
会計	高橋雅幸				
会計監査	山川昌一				

平成19年6月

顧問	市橋千鶴子	谷 清	能味寿哉	重野和夫	堀田 勲
相談役	福谷 実	藤村俊夫			
支部長	山口康雄				
副支部長	丸本 大	風間 健	小島泰義	高橋雅幸	
幹事長	石井 孝				
副幹事長	平本聖子	新倉良平			
会計	真見 敬	上田邦雄			
会計監査	二宮 巍	山川昌一			
理事	阿部正行	川村俊介	金子清治	北井治憲	沼崎末次
	春日 勝				



国立白門会創立三十周年記念誌  
はばたきⅢ

---

平成 21 年 6 月 21 日発行

発行者 中央大学学員会国立支部  
支部長 山口 康雄

〒186-0002 国立市東 1-1-19-302

印刷 株式会社クリアイメージ

〒101-0052 千代田区神田小川町 2-12